

ジュネーブ、2010年2月4日付

IPCC の役割と IPCC の評価プロセスの主要な要素（環境省仮訳）

IPCC は UNEP と WMO がスポンサーとなっている政府間機関である。主となる意思決定機関は”パネル”であり、195 の IPCC 構成国全ての政府代表レベルで、定期的に総会を開催している。『IPCC の作業原則』で定義されているその役割は「包括的、客観的、オープンで透明な基礎に立ち、人間により引き起こされる気候変動のリスクの科学的基礎、その潜在的な影響および適応と緩和のオプションの理解に関連する科学的、技術的、社会経済的な情報を評価することである。IPCC の報告書は、特定の政策の適用に関連する科学的・技術的・社会経済的な要因を客観的に扱う必要があるかも知れないものの、政策に関して中立でなければならない。レビューは IPCC のプロセスの本質的な部分である。IPCC が政府間機関であることから、IPCC による文書のレビューは専門家による査読と政府によるレビューのいずれをも含まなければならない。」である。

IPCC はこの役割を、評価報告書・方法論報告書・特別報告書を含む報告書を定期的に用意することで果たしている。これらの報告書の草稿作成とレビューは明確な手続きに従っている。IPCC のプロセスと手続には以下が含まれる：

専門家と諸政府との協議による報告書のスコープの作成とパネルによるアウトラインの決定

- この手順は関連する科学的な進展と政策決定者の情報ニーズが今後出される報告書に反映されることを確保している。

広範な専門知識及び観点を反映し、ボランティアベースで従事する執筆者チーム

- IPCC 報告書の各章の執筆者チームは、適切な地域的な代表性を有するとともに、広い範囲の観点や専門知識を代表しなければならない。IPCC はまた性別のバランスも目指している。これは、ちょうど第5次評価報告書のために進行しているような、幅広い推薦と選定のプロセスによって達成される。
- 450人以上の主執筆者と800人以上の執筆協力者が第4次評価報告書に貢献している。彼らはおよそ2,000の推薦から選ばれている。
- 報告書に貢献している全ての専門家はボランティアベースで従事しており、必要な会合への出席旅費のみが支払われている。

可能な限り査読を受けた国際的に利用可能な文献に基づく執筆のプロセス

- 執筆者が作業の基礎としているのは査読を受けた国際的に利用可能な文献であり、必要に応じ、IPCC のレビューに利用できる原稿や選定された非査読文献も含む。
- IPCC 報告書に関連する資料、特に緩和や適応活動における民間部門の経験や実践についての情報は、公に刊行されていない、あるいは査読されていない情報源(例えば産業界の定期刊行物、組織内部での公表物、研究機関の非査読報告書あるいは作業ペーパー、ワークショップの議事録など)にも見出される。多くの情報はまた政府の報告書や国際機関からの公表物にも存在する。IPCC の報告書で用いられる全ての参考文献を容易に入手可能にし、また IPCC の作業プロセスがオープンで透明であることを確実にするために、しばしば“灰色文献”と呼ばれる、このような情報源の利用について追加的な手続が合意された。
- 非公刊もしくは非査読の情報源からの情報を含めることを希望する執筆者は、IPCC の報告書に結果を取り入れる前にそれぞれの情報源の品質や有効性について批判的に評価・レビューすることを求められる。
- 共同議長は、執筆者から受け取った公には利用可能でない各々の情報源およびそれに付随する情報を収集して索引をつけ、またレビュープロセスでレビュアーの要請に応じてコピーを利用できるようにしなければならない。
- IPCC は評価プロセスを支援するために、専門家会合およびワークショップも利用する。
- IPCC の報告書の結論は複数の証拠および広範な科学技術的な文献に基づいている。

専門家と諸政府を含める複数段階の透明なレビュープロセス

- IPCC のレビューは、可能な限りの最良な科学的・技術的助言が含まれることが確実になることを目指して複数の段階を課しており、結果として IPCC の報告書は最新の科学的・技術的・社会経済的な知見を代表しており、可能な限り包括的である。報告書の草稿はあらゆる専門分野およびあらゆる地域の独立した専門家に配布され、また第 2 段階では政府のレビュアーにも配布される。専門家は草稿の文章についてコメントを送ることが出来る。これは極めて広範な配布を伴うプロセスであり、原則として科学専門家は誰でも参加できる。
- IPCC の報告書が現状の情報のバランスの取れた完全な評価を提供するために、全ての実質的な専門家および政府のレビューコメントが適切に考慮されることを、章ごとに少なくとも 2 人の査読編集者を置くことで確実にする。
- 客観性と透明性を確実なものにするために、レビューコメントは IPCC のレビュープロセスで要請があったときにレビュアーが利用できるようにされている。報告書の完成にあたり、全てのレビューコメントと執筆者による回答は公開のアーカイブ

ブ(第4次評価報告書(AR4)のコメントは IPCC のウェブサイト及びそれぞれの作業部会のウェブサイトからリンクされている¹⁾に最低5年間保持される。

- 草稿と最終報告書の準備に当たって、執筆者は各事項について、異なる(意見の分かれることもある)科学的・技術的・社会経済的な観点を、関連する論拠とともに、とりわけそれが政策の議論に関連する場合は、明確に特定し記述しなければならない。

IPCC の報告書の承認・受諾・採択およびパネルによる要約

- 政策決定者向け要約(SPM)は、それぞれのレポートの主要な知見を要約するものであり、報告書本体の準備と同時進行で準備され、専門家と諸政府が同時に行うレビューの対象となる。SPM は全ての IPCC 参加国が招請されている総会での1行ごとの承認の対象である。1つ又は2つの作業部会により準備される報告書の場合、承認は単独もしくは合同の作業部会会合で行われ、全ての作業部会もしくは国別温室効果ガスインベントリに関するタスクフォースにより準備される報告書の場合は、承認は総会で行われる。
- 政策決定者向け要約の承認は、それが科学的・技術的・社会経済的な評価全体に含まれている事実に関する資料と整合していることを意味する。総会の間、統括執筆責任者は、この整合性を確認するために必要な技術的な支援を求められることもある。
- 統合報告書(SYR)は IPCC の報告書(評価報告書および特別報告書)に含まれる資料を合成・統合し、広範な、政策に関連するが政策に中立な疑問に答えようとするものである。政策決定者向け要約(SPM)とその基礎となる報告書との整合性を確実なものとするために、統合報告書政策決定者向け要約(SYR SPM)は1行ごとに承認され、本編はセクション毎に採択される。
- 基礎となる報告書(評価報告書、特別報告書および方法論報告書)は作業部会あるいはパネルの総会で受諾される。それらは1行ごとの議論や合意の対象にならないものの、構成国の承認はその評価材料が対象となる問題についての包括的で客観的なバランスの取れた観点を提示していることを意味する。

不確実性に関する一貫した情報提供

- 第4次評価報告書の主執筆者が科学的な不確実性を整合的に提示できるように支援するため、不確実性のガイドラインが準備された。ガイドラインは専門家の判定を行うこと、不確実性を評価すること、評価プロセスを通じて形成される知見についての不確実性や確信度を伝達することに対するアプローチを取り扱っている。

- これらのガイドラインに基づき、AR4 執筆者は政策決定者向け要約における主だった記述に確信度の水準を付与した。これらは「非常に高い」から「非常に低い」確信度の範囲となっている。
- 執筆者は「可能性」も評価しているが、これはある特定の結果が起きている、あるいは将来起きる確率的な評価を示しており、政策決定者向け要約におけるいくつかの結果についての可能性は「ほぼ確実」から「可能性が非常に低い」の範囲となっている。

主として、諸政府からの任意拠出金と諸政府、研究機関および研究者からの現物による寄附に基づく予算

- IPCC の予算は、2つのスポンサー機関である世界気象機関(WMO)と国連環境計画(UNEP)からの定常的な拠出(これらが現金と IPCC 事務局における一つの上級ポストを提供)、及び締約国の合意による UNFCCC からの定常的な拠出金に基づいている。拠出の最も大きなものは諸政府からの任意拠出に由来する。
- 拠出金は IPCC 信託基金の下で管理されており、歳出は IPCC の財務手続や WMO の財務規則に則ってパネルによって決定され、レビューされる。
- 歳出の主な項目は開発途上国および経済移行国の専門家への旅費支援、会合の経費、通訳及び翻訳、情報及びアウトリーチ活動、そして IPCC 事務局のスタッフである。
- IPCC の作業への大規模の追加的な貢献が IPCC 作業部会や国別温室効果ガスインベントリに関するタスクフォースの技術支援ユニットをホストしている諸政府により提供されている(現在スイス、アメリカ合衆国、ドイツおよび日本)。
- さらに物品、役務での貢献が、IPCC 会合や各種会議をホストしたり、データ配信センターをホストしたり、IPCC の作業への専門家の参加を支援したりすることを通じて諸政府によって提供されている。
- 執筆者と選任された IPCC ビューローメンバー(現在 31 名)はボランティアベースで作業しており、いかなる謝礼金あるいは報酬も IPCC から受け取っていない。IPCC は開発途上国及び経済移行国から IPCC の会合に出席するための、あるいは IPCC を代表してプレゼンテーションを行うための、専門家および IPCC ビューローメンバーの旅費のみを支給している。発生した必要経費として少額の支援が開発途上国からの共同議長(現在 5 名)のために提供されている。

¹ For WG I: <http://hcl.harvard.edu/collections/ipcc/index.html>

For WG II: http://www.ipcc-wg2.gov/publications/AR4/ar4review_access.html

For WG III: <http://www.ipcc-wg3.de/publications/assessment-reports/ar4/forth-assessment-review-comments>

(添付) IPCC 声明原文

GENEVA, 4 February 2010

The role of the IPCC and key elements of the IPCC assessment process

The IPCC is an intergovernmental body sponsored by UNEP and WMO. The main decision-making body is the “Panel” which meets at regular intervals in plenary sessions at the level of government representatives of all 195 IPCC member countries. Its role as defined in the “Principles Governing IPCC Work” is *“to assess on a comprehensive, objective, open and transparent basis the scientific, technical and socio-economic information relevant to understanding the scientific basis of risk of human-induced climate change, its potential impacts and options for adaptation and mitigation. IPCC reports should be neutral with respect to policy, although they may need to deal objectively with scientific, technical and socio-economic factors relevant to the application of particular policies. Review is an essential part of the IPCC process. Since the IPCC is an intergovernmental body, review of IPCC documents should involve both peer review by experts and review by governments.”*

The IPCC fulfills this role by preparing reports at regular intervals, including assessment reports, methodology reports and special reports. The drafting and review of these reports follows clear procedures. Key elements of the IPCC process and procedures include:

Development of the scope of a report in consultation between experts and governments and decision on the outlines by the Panel

- This step should ensure that relevant scientific developments as well as the information needs of policymakers are reflected in the upcoming reports.

Author teams that reflect a wide range of expertise and views and work on a voluntary basis

- Author teams for the chapters of IPCC reports should represent a range of views and expertise as well as appropriate geographical representation. The IPCC also aims for gender balance. This is achieved through a wide nomination and selection process, as is currently ongoing for the Fifth Assessment Report (AR5).
- More than 450 Lead Authors and more than 800 Contributing Authors (CAs) have contributed to the Fourth Assessment Report (AR4). They were selected from around 2000 nominations.
- All experts contributing to the report work on a voluntary basis and are compensated only for their travel expenses to the necessary meetings.

A writing process based as far as possible on peer-reviewed and internationally available literature

- The authors will work on the basis of peer reviewed and internationally available literature, including manuscripts that can be made available for IPCC review and selected non-peer reviewed literature as necessary.
- Materials relevant to IPCC Reports, in particular, information about the experiences and practices of the private sector in mitigation and adaptation activities, are also found in sources that have not been published or peer-reviewed (e.g., industry journals, internal organisational publications, non-peer reviewed reports or working papers of research institutions, proceedings of workshops, etc.). A lot of relevant information appears also in

government reports and publications from international organizations. To make all references used in IPCC Reports easily accessible and to ensure that the IPCC process remains open and transparent, additional procedures have been agreed for the use of such sources, often referred to as “grey literature”.

- Authors who wish to include information from a non-published/non-peer-reviewed source, are requested to critically assess and review the quality and validity of each source before incorporating results into an IPCC Report.
- The Co-chairs have to collect and index non publicly available sources as well as the accompanying information received from authors about each source and make copies available to reviewers upon request during the review process.
- The IPCC uses also expert meetings and workshops to support the assessment process.
- Conclusions in IPCC reports are based on multiple lines of evidence and a wide range of scientific technical literature.

A multi stage and transparent review process involving experts and governments

- The IPCC Review entails multiple stages aimed at ensuring that the best possible scientific and technical advice be included, so that the IPCC Reports represent the latest scientific, technical and socio-economic findings, and are as comprehensive as possible. Draft reports are circulated among independent experts from all relevant fields of expertise and all regions, and in a second stage to government reviewers as well. Experts can send comments on the draft text. It is a process with a very wide circulation, which in principle any scientific expert can join.
- At least two Review Editors per chapter ensure that all substantive expert and government review comments are afforded appropriate consideration so that IPCC Reports provide a balanced and complete assessment of current information.
- To ensure objectivity and transparency, review comments are made available to reviewers on request during the IPCC review process. On completion of a Report all review comments and responses by authors are retained in an open archive (AR4 comments are linked from the IPCC website and respective Working Groups’ websites¹) for a period of at least five years.
- In preparing the draft and final report, authors should clearly identify and describe different (possibly controversial) scientific, technical, and socio-economic views on a subject, together with the relevant arguments, particularly if they are relevant to the policy debate.

Approval, acceptance and adoption of IPCC reports and their summaries by the Panel

- The Summaries for Policy Makers (SPM), which summarize the key findings of each report, are prepared concurrently with the preparation of the main Reports and are subject to simultaneous review by both experts and governments. They are subject to a final line-by-line approval in a Plenary Session, which all IPCC member countries are invited to join. In case of Report prepared by one or two Working Groups this will be done at a Working Group or joint Working Group Session or a Panel Session - in the case of reports being prepared by all WGs or the TFI.
- Approval of the Summary for Policymakers signifies that it is consistent with the factual material contained in the full scientific, technical and socioeconomic assessment. During the Session, Coordinating Lead Authors may be asked to provide technical assistance in ensuring that consistency.
- The Synthesis Report (SYR) synthesizes and integrates materials contained within the IPCC Reports (Assessment and Special Reports) and addresses a broad range of policy-relevant but policy-neutral questions. The SYR SPM is approved line-by-line and the longer report adopted section by section to ensure consistency with the SPM and the underlying Reports.
- The *underlying* Reports (of Assessment, Special and Methodology Reports) are accepted at a Session of the Working Group or Panel. While they are not subject to line-by-line discussion and agreement, approval by member countries signifies that the material presents a comprehensive, objective and balanced view of the subject matter.

¹ For WG I: <http://hcl.harvard.edu/collections/ipcc/index.html>

For WG II: http://www.ipcc-wg2.gov/publications/AR4/ar4review_access.html

For WG III: <http://www.ipcc-wg3.de/publications/assessment-reports/ar4/forth-assessment-review-comments>

Consistent communication of uncertainties

- To assist Lead Authors of the Fourth Assessment Report in the consistent presentation of scientific uncertainties, uncertainty guidelines were prepared. They address approaches to developing expert judgments, evaluating uncertainties, and communicating uncertainty and confidence in findings that arise through the assessment process.
- Based on these guidelines, the AR4 authors assigned confidence levels to the major statements in the Summary for Policymakers. These range from very high to very low confidence.
- Authors also evaluated the likelihood, which refers to a probabilistic assessment of some well-defined outcome having occurred or occurring in the future, for certain outcomes in the Summary for Policymakers, with a range from *virtually certain* to *very unlikely*.

A budget based mainly on voluntary contributions from governments and in kind contributions from governments, research institutions and researchers

- The IPCC Budget is based on regular contributions from the two sponsoring organizations WMO and UNEP, which provide cash and one senior post in the IPCC Secretariat and regular contributions from the UNFCCC as agreed by the Parties. The largest share of contributions comes from governments on a voluntary basis.
- The contributions are managed under the IPCC Trust Fund. Annual expenditures are decided and reviewed by the Panel, consistent with the IPCC financial procedures and WMO Financial Regulations.
- Main items of expenditure are travel support for experts from developing countries and from countries with economies in transition (EIT), meeting costs, interpretation and translation, information and outreach activities and staff in the IPCC Secretariat.
- Large additional contributions to the work of the IPCC are provided by the governments who host Technical Support Units (TSUs) for IPCC Working Groups and the Task Force on National Greenhouse Gas Inventories (currently Switzerland, US, Germany and Japan).
- Further in-kind contributions are provided by countries hosting IPCC Sessions and meetings, hosting the Data Distribution Center and through their support for expert participation in IPCC work.
- Authors and elected members of the IPCC Bureau (currently 31 persons) work on a voluntary basis and do not receive any honoraria or compensation from the IPCC. The IPCC only provides travel costs for experts and members of the IPCC Bureau from developing countries and countries with Economies in Transition for participation in IPCC meetings or for giving presentations on behalf of the IPCC. A small contribution for administrative costs incurred is provided for Co-chairs (currently 5 persons) from developing countries.